

小児リハビリテーション対象疾患の薬学的理解と医用工学的発展の可能性

鬼頭敏幸^{1) 2) 3)}

- 1) 愛知学院大学薬学部疾患病態学
- 2) 愛知学院大学歯学部附属病院 小児科
- 3) 医療法人仁医会なかざわ記念クリニック（愛知県西尾市）

小児リハビリテーションの主要な対象疾患の治療進歩について概説し、小児リハビリテーション対象児の薬物療法の問題点につき提示する。

- ・脳性麻痺におけるボツリヌス毒素療法
- ・筋ジストロフィーにおけるジストロフィンのエクソン53を標的とするアンチセンス核酸ビルトラルセン、「ドラッグリポジショニング」としての抗生物質エリスロマイシン

- ・発達障害（自閉症を含む）に伴う睡眠障害にメラトニン
- ・発達障害（注意欠陥多動性障害）における
メチルフェニデート、メチルフェニデートリスデキサメタミンメシル酸塩、アトモキセチン、グアンファシンなどの薬物治療の現状について概説する。

医工学的側面として：口唇口蓋裂児への

- ①軟口蓋栓塞子
- ②バルブ型スピーチエイド
- ③軟口蓋挙上装置などについて述べる。

薬学上の主要な問題点として：医療的ケア児への多剤処方現状について提示する。